

あります。これから気象学を進めるにはそれぞれの地域性ということでの国際協力も必要ですし、研究方法の上での国際協力も必要です。

気象学者の取扱う問題は横の拡がりでは全地球面上に及ぶのであります、高さの方では Atmosphere の及ぶ限りの所が入るものと思います。この方面では I G Y で色々の観測が行われつつあります、またすでにソ連は 2 個の人工衛星を飛ばせております。戦後のロケットによる観測で、いわゆる超高層気象は、いく分はっきりしてきたのでありました、今後は人工衛星による観測、あるいは人工衛星そのものの観測で、この方面にはまた計画的な進歩がもたらされることであります。私はほかの惑星の大気現象もやはり気象学者の研究を待っているものと思うであります。気象学のそのほかの色々な分野についてみても、今やはっきりした進歩の段階がみえております。人によっては進歩の黄金時代にあるともいいます。

“古きよき時代”というのはよく聞く言葉であります、こう考えて参りますと、我々は我々の学会の75年の記念式に当って“新しきよき時代”的入口に立ったと考えてもいいのではありますか。そしてまた我々各自がその学会の一員であったことを非常な幸運と考えてもよいのではありませんか。

これをもって私の式辞といたします。

1957年11月9日

日本気象学会理事長

畠山久尚

日本気象学会創立75周年記念 大会に寄せられた祝辞

文部大臣

本日ここに日本気象学会の創立75周年記念式典が挙行されるにあたり、お祝を申し述べることのできますのはわたくしの深くよろこびとするところであります。

顧みれば、この学会が、正戸豹之助氏らの主唱のもとに、東京気象学会としてはじめて結成されたのは、明治15年5月のことです。当時、わが国における気象学は、まだ初步の時期で、気象観測等の事業もようやく緒についたばかりであり、新しく発足したこの学会も、会員数わずかに38名にすぎなかったと聞いております。それ以来会員諸氏の努力によって会は年とともに発展し、現在では北海道、東北、関東、関西、九州の5地区に支部をもち、会員数約1,400名を数えるに至り、また事業の面においても、あるいは「気象雑誌」「天気」「気象研究ノート」等、定期刊行物を発行し、あるいは国内及び国外の関係学会との協力を図るなど、活発な活動を展開して、気象学の研究を推進し、学術文化の発達に貢献して來たのであります。わが国気象学が、今日のように高い水準に達したのはこの学会の多年にわたる業績に負うところがはなはだ大きいのであります。

本年は学会の創立75周年に相当しますので、本日ここに盛大な式典の行われますことは、その意義まことに深

く心からお祝を申し上げます。同時にまた幹部各位はじめ会員諸氏には、これまで学会の歩んで來たあとを回想して、さだめし感慨の深いものがおありのことと推察いたし、その御労苦に対して深厚の敬意を表する次第であります。

今や世界における学術の進歩は真にめざましく、これに伴って、人類生活にはほとんど革命的革新が行われつつあります。このときにはあたり、人間の生活に最も関係の深い気象学の研究を使命とするこの学会の今後の活躍に期待するところはすこぶる大なるものがあります。わたくしは本日の記念式典に際し、ここに学会の輝かしい業績をたたえて、今日の隆盛をお祝い申しますとともに、関係の皆様の御努力によってこの学会がますます発展することを心からお祈りしてお祝のことばといたします。

昭和32年11月9日

文部大臣 松永 東(代読)

運輸大臣

菊花かおるこのよき日、ここに日本気象学会創立75周年の式典を挙行されるにあたり、一言所懐を述べる機会を得ましたことは、私の最も喜びとするところであります。

1957年12月

す。

顧みますれば、明治15年日本気象学会が創立され、その間社会情勢に応じて拡張された気象事業と共に、幾多の変遷がありました。会員各位の協力一致、たゆまざる研さんにより、わが国の気象学会は、学問的には既に世界の水準に達し、応用的にはわが国の気象事業に対し、直接、間接に多大の寄与貢献をして、輝かしい業績を挙げつつあることは、気象業務の主務大臣として、衷心から敬意を表する次第であります。

この気象事業たるや、各種の災害防止を始め国土並びに海洋資源の開発、交通、運輸、農業その他各種産業等国民生活のあらゆる要望にこたえつつあります。

しかも最近は、応用方面の分野はますます拡大されこれに応じて気象学の発展とそれらの研究成果が要望されることはまことに切実で会員各位の責任は重且大であります。特にわが国は、気象災害をこうむることは甚大で、これら災害後の復旧対策ばかりに力を入れても、災害を軽減することはできないのであります。むしろ、事前に防止する対策を講ずる必要があります。

この意味におきまして、この災害防止対策の基礎となる学問的な研究は、全国民の期待するところであります。今後一層ご精進されんことを切にお願いする次第です。

ここに所懐の一端を述べて、祝辞といたします。

昭和32年11月9日

運輸大臣 中村三之丞

日本学術会議会長

創立75周年を迎えたことにお祝い申上げる。今理事長のお話の中に新しきよき時代ということがあったが、これを聞いて私は気象学会の皆さんをうらやましいと思う。私の専門の物理学部門では、その進歩によって強大なエネルギーを産み出すようになったので、物理学者は研究にばかり専念してはおられない。自分の研究結果が平和的な方面にのみ用いられるならば良いが、戦争の道具として使われると大変である。物理学者は社会の動きに対しても無関心ではおられない。気象学者は自分達の得た成果はそのまま、全世界の人々の幸福のために貢献することになるので、われわれのような心配はいらない。

時あたかも国際地球観測年にあたって、人工衛星等による大気上層の観測など、新らしく研究分野が拓がり、われわれの大気についての知識も急速に発展すると思われる。どうぞ今後ともますます研さんされて、日本気象学会がいよいよ発展することを願って止まない。(要旨、文責は編集部にある)

日本学術会議会長 茅 誠 司

気象庁長官

日本気象学会が、ここに75周年記念式を挙行されるに当り、心からのお祝いの言葉を送りたいと存じます。

日本気象学会は、その初期の頃は気象学を研究される方々が、ほとんど当時の中央気象台に勤いておられた関係上、気象学会は気象台の仕事の一部のようにして経営されて参りました。その後学問の進歩と、わが国気象学界の発展とにより、日本気象学会は学術的研究団体として独立した立派な学会となり、ここに75年の長い年月発展を重ね、いくたの優秀研究を発表し、現在世界における一流学会として赫々たる存在となっております。誠に慶賀に堪えません。

今日75周年の記念式が、かく盛大に行われるに当たりまして、一員としてはもちろん、気象庁を代表するものとして、喜びに堪えず衷心より祝意を表する次第であります。

さて、気象事業は近年益々その重要性が認められ、世界各国において、それぞれの国情に応じて、気象事業の整備がはかられておる状態であります。わが国が、世界においても有数の気象の複雑な国であり、また気象災害を多く受けている関係上、日本の気象事業は世界に類を見ない独特の発展をとげて参ったと存ずるであります。この間において、気象事業は、日進月歩の気象学と気象技術とが根底にあって始めて事業の完遂が出来たのであります。その点において気象庁は、日本気象学界の発展に負うところが頗る大きいことを思ひざるを得ません。

とくに、二三の例を挙げて見ましても、近年の気象事業における重要な業務である、長期予報や、超高度の航空気象業務、レーダーによる気象観測、電子計算機による数値予報などは、悉く、近代の気象学の発展なくしてはその実用化は行い得ないのであります。従って、気象学関係の研究者が、日本気象学会を中心として、気象学の進歩のために貢献されることは、直ちに、わが国気象事業を通じて社会の福祉につながるものであります。

私はこの機会におきまして、日本気象事業が今まで多くの研究者より、気象学、気象技術の寄与を、日本気象学会を通じていかに多く受けているかを思い、ここに深甚なる感謝を述べたく存じます。それと同時に、今日、日本の気象学界を現在の高いレベルにまで持ち来られた幾多の偉大な先輩の過去における並々ならぬ苦心と努力に対し、そして、今日日本の気象学の進歩を双肩に担われ日夜研究にいそしめる研究者の方々の献身に対して深い敬意を表すとともに、日本気象学会の今後ますます隆盛ならんことを祈り、これをもって祝辞と致します。

気象庁長官 和達清夫

米国気象学会

理事長、会員諸君、来賓の皆さん。

日本気象学会75周年記念式にあたり、米国気象学会を代表して心からの御祝いを申し上げることは私の最も喜びとするところであります。また私はこの機会に貴学会の多くの友人に私の個人的祝辞を呈したいと思います。

私は挨拶を申し述べるにとの御申出を非常に名譽なこととして御受けしたのですが、実はいさかかはずかしく思っているだいです。それと申しますのは、私が会長をつとめております米国気象学会は創立以来38年に過ぎず、貴学会の方が正確に言ってほとんど倍も古いからです。皆さんは永年にわたって貴国における研究の推進に傑出した役割を果し、また皆さんの気象集誌は世界の気象学者・地球物理学者の間で非常に高い位置を占めています。このことは、われわれの科学の分野を推進し、基礎的な科学知識を普及することにとって極めて重要なことでした。われわれ米国の気象学者は、気象界の最近の思潮について行くのを援助して下さったことに対して皆さんに感謝いたします。

このように、科学者に気象学および地球物理学における新しい進歩を知らせるということでは、われわれの両学会の演ずる役割はますます大きくなつてゆくものと信じます。御承知のことと思いますが米国ではいろいろな種類の気象機関が存在し、そのうちあるものは政府機関ですがそうでないものもあります。公衆に奉仕するものとしては気象局がありますが、このほか軍に対して気象協力をを行う機関があり、また公衆衛生、農業、洪水対策その他の政府事業には気象の専門家がおります。多数の大学には教育と研究を目的とする有力な気象学科が置かれています。多くの航空路会社、電力会社その他の経営ならびに産業は、それぞれの気象部門をもっています。また、堅実な私立天気予報会社が発展しており、客に対して弁護士組合や顧問技師がするのと同じように非常に専門的な気象的助言を提供しています。極めて多数のテレビ局や放送局は、気象の番組を放送するために高度の教育を受けた民間気象家を雇っています。

しかし本質的には、こういう人達はみな同じタイプの気象専門家および気象学者であります。彼等はその多方面にわたる仕事の興味から米国気象学会に共通の会合の場を提供することを期待しております。米国気象学会は印刷物の発行と学会の開催という手段を通じてこのことを実行しております、非常に活動的であるため高度の信用を維持しています。最近はまた、長期予報、台風やトルネードの予報、人工気象その他の事項における専門家の能力とその限界について、会員のあらゆる層に利用してもらうため声明を発することを始めました。

日本および米国気象学会によって代表される分野は発展性のあるものであります。公衆の行う事業で気象的助

言を要求するものは日ましにふえております。われわれの気象学の仕事は、海洋学、水理学、電離層物理学、電子工学、数学および化学のような関連諸科学の仕事と密接不離の関係にあります。われわれは北極から南極に至るまでの範囲で、地表から大気の上限界までにわたって気象観測を行うことを考えねばなりません。われわれは科学的研究を行なうとともに、専門的協力業務をなさねばなりません。こういう事実を認識するならば、日本気象学会と私の学会の有する重要性は明らかです。この点について貴学会は永年の経験を持っておられるのですから、われわれ米国気象学会員は皆さんの卓越した貢献に対して重ねて感謝いたします。その貢献の中に岸保博士によってなされた数値予報の重要な業績が含まれていることは私の最も喜びとするところであります。同博士の岡田賞受賞にあたり御祝を申し上げます。あるいは将来、われわれ両学会の合同会議を通じて、更に多くのこの種の重要な貢献について聞く機会があることでしょう。

最後に私は、日本気象学界の友人諸氏に御話する機会を与えたことをもう一度感謝したいと思います。そしてまた、この記念すべき式典に対するわれわれの善意と心からの祝辞を御受け下さるよう重ねて御願い申し上げます。 (須田 建 訳)

米国気象学会会長 R. D. フレッチャー

日本地球物理学会連合会長

菊花かおるこの佳きとき、日本気象学会がその創立75周年の記念すべき日を迎えていた事を心からお祝い致します。

たまたま本年は国際地球観測年の第一年にあたり、このとき貴学会が創立75周年をむかえられた事はまことに意義あることと思います。

維新創業の日、未だ浅い明治15年に呱々の声をあげて以来、貴学会は日本独自の日本人の独創による気象学の確立のために進んでこられました。当時は西欧万能能で、すべての科学技術がその植民地性と後進性とから脱却出来なかつたにも拘わらず、貴会はよく日本独自の気象学確立の大目標にすすみました。私達は草創期の貴会の指導者諸氏にこの点で深い畏敬の念をいたるものであります。

75年のながきに亘る貴会機関誌「気象集誌」を通覧いたしますに、私共は、わが風土と民衆の生活に直接のつながりをもつ、気象学の確立をめざして進んだ諸先輩の苦闘のあとをまざまざと偲ぶことが出来ます。なかなか、台風、洪水、地震、高潮、雷災、火災など気象的災害の多いわが国において、その防災上の功績は農業気象、漁業気象、衛生気象等の産業厚生上の功績と共に貴学会に負うところ多大なものがあるのです。

「気象集誌」は今や英國王立気象学会誌や「テラス」

誌など西欧の一流気象学誌にまさるとも劣らぬ内容をもち、海外の気象学界で高く評価されているのは貴学会の今日までの御努力の賜物と申すべきでしょう。

私は海外各地の大学、研究所などでこの「気象雑誌」が広く活用されているのを親しく見て、わが国の学問のために大いに意を喰らうしたものであります。

気象学は現在非常な進歩発展をとげ、地球物理学の他の分野との関連も益々密になって来ております。

超高层の大気の研究が進むにつれて気象学は宇宙線の問題、電離層の問題などと関連し、物理化学、原子物理学、空中電気学と密接に結びついています。気象学と化学との結びつきは、放射能雨の問題で我々の重要な関心事となっています。

又大気中の炭酸ガス量の消長は、我々の住む地球の気候に大いなる影響ありといわれ、今次国際地球観測年の

重要課題の一となっております。更に海洋学と気象学のむすびつきについては、長期予報に海況資料が現在活用されている事でも明らかであります。

このように気象学と地球物理学他分野との関連が濃くなっているとき、私共は日本気象学会が日本地球物理学連合会の中核として、今後一層の発展をとげられん事をねがうものであります。

日本気象学会がこの75周年を契機として更に飛躍発展をとげられ、わが国の平和的復興と人類の福祉の増進に、気象学を通じて偉大なる寄与をされる事を期待し、お祝いの言葉をいたしたいと思います。

昭和32年11月9日

日本地球物理学連合 当番学会

日本海洋学会会長 日高孝次（代読）

創立75周年記念大会に寄せられた祝電

ベルギー気象学会々長

Dear Mr. President,

I acknowledge the receipt of your letter of the 30th of September. I appreciate very much your kind invitation, but my academic duties at this period of the year do not allow me to travel abroad.

With my very best wishes for a successful celebration of the 75th anniversary of the Meteorological Society of Japan.

Sincerely yours,
Prof. Dr. J. Van Mieghem.

中国気象学会々長

Dear Sir,

I am in receipt of your cordial invitation to attend the commemorating meeting of the 75th anniversary of the Founding of Meteorological Society of Japan. Owing, however, to the fact that I shall be on a mission abroad by that time, I have to forego the opportunity of accepting your invitation. Please accept my sincere thanks for your invitation. Wishing you success in holding your forthcoming meeting.

Yours sincerely,
Coching Chu

中華人民共和国気象局長

日本気象学会
日本気象学会創立七十

五周年大会：我謹代表
中華人民共和国中央氣象局熱烈地祝賀日本氣象学会創立七十五周年
大会、預祝大会成功！
涂長望

ドイツ気象台長

Sehr geehrter Herr Hatakeyama!

Ich bestätige den Empfang Ihrer an Herrn Dr. Benckendorff gerichteten Einladung zum 75-jährigen Bestehen Ihrer Gesellschaft. Ich darf Sie darauf aufmerksam machen, daß Herr Dr. Benckendorff vor zwei Jahren mit Erreichen der Altersgrenze aus dem Deutschen Wetterdienst ausgeschieden und in den Ruhestand getreten ist. Seit 1. 11. 1955 wird der Deutsche Wetterdienst von mir geleitet.

Ich danke Ihnen für Ihre freundliche Einladung, von der ich annehme, daß sie für den Präsidenten des Deutschen Wetterdienstes bestimmt ist. Anderweitige Verpflichtungen machen es mir leider unmöglich, an den Feierlichkeiten anlässlich des 75. Jahrestages des Bestehens der Meteorological Society of Japan teilzunehmen. Ich wünsche einen guten Verlauf und bin mit vorzüglicher Hochachtung

Dr. G. Bell

日本地球電気磁気学会委員長

75周年記念式にあたり、貴学会の過去の偉大なる功績

“天氣” 4. 12.